

奇妙なる近所付き合ひ

赤谷慶子

昨年霜月に世田谷區奥澤より、二十年暮らしし白金臺周邊に戻りき。海外含め二十度家移りせし我にとり、二十年同じ場所に住まふといふはいと長し。白金臺在住の頃より「白金臺愛犬の會」といふ集團あり。一九九八年ほどより日ごろ缺かさず愛犬と共に集團散歩せり。犬の散歩故、愛犬の名は聞くものの、己は名乗らず、殆どの場合相手の姓名を知らずして散歩す。これにちなみ笑ふべき物語多々あり。畠山記念館の學藝員はラブラドルレトリバーの大型犬を飼へり。ある日電車内にてその散歩仲間の白き日本犬の飼ひ主と同乗したり。顔見知りなれど姓名分からず、愛犬の名を借りて挨拶すといふ可笑しき會話となりにけり。「シロの父親の○○なり」「マクの父親の○○なり」と言ふ怪しき挨拶なりし由に、周辺の乗客は怪訝なる表情しけむ。中型犬以上は雨、雪、嵐ならむと、槍ふるとも散歩には出づ。これ三百六十五日似通ひし時間に散歩すれば顔見知りにもならむといふもの。いふべきにもあらず、より親しくなれば年に二回、春の花見、夏のバーベキュー等楽しく共に食事する事も多々あり。

我愛犬チャミーは二〇一三年に白金臺より奥澤へ家移り、ひと月経ち荷物の整理も整ひし頃虹の橋を渡りき。大型犬なるを思へば長壽の十八歳なりき。我家にて現在飼ふは黒き柴犬の雜種にて満九歳なり。五年前に安藝のピースワンコジャパンといふ保護活動せる團體より譲り受けき。霜月より毎日早朝散歩したれど、このひと月ほどの間に、「チャミーの母上にあらせられずや」と聲をかけられしが三たびに及ぶ。始めの一人は我家より百米の距離にありし耳鼻咽喉科の院長夫人。その診療所の娘は我家の隣人なりき。二人目は同じ建物の住人にて、我が顔をまじまじと見入り「いでや、チャミーの母上？ 我が家にて飼ひたるは名をラピスといふ長毛のダックスフントなれど、はや鬼籍に入れたりけり」。飼ひ主の姓名は分からず。但し犬の名は記憶せり。三人目は近隣に知らぬ人なき、薔薇に覆はれたる邸宅の北の方に、つとめての散歩にすれ違ひざまに聲をかけられたり。「かの清げなる櫻の大木を切りたまひしか」とも付け加へて。白金臺の家は人手に渡りし事をことわり、樹木一本も植うるなき黒き大理石壁に覆はれし家を建てたりと辯疏せり。

白金臺より奥澤へ移りて八年を経るにも拘はらず、愛犬チャミーの名にて呼ばれむとは思ひもよらず、懐かしくも異なる付き合ひをしたるものかなと感慨深し。

(令和四年六月二十八日受附)

